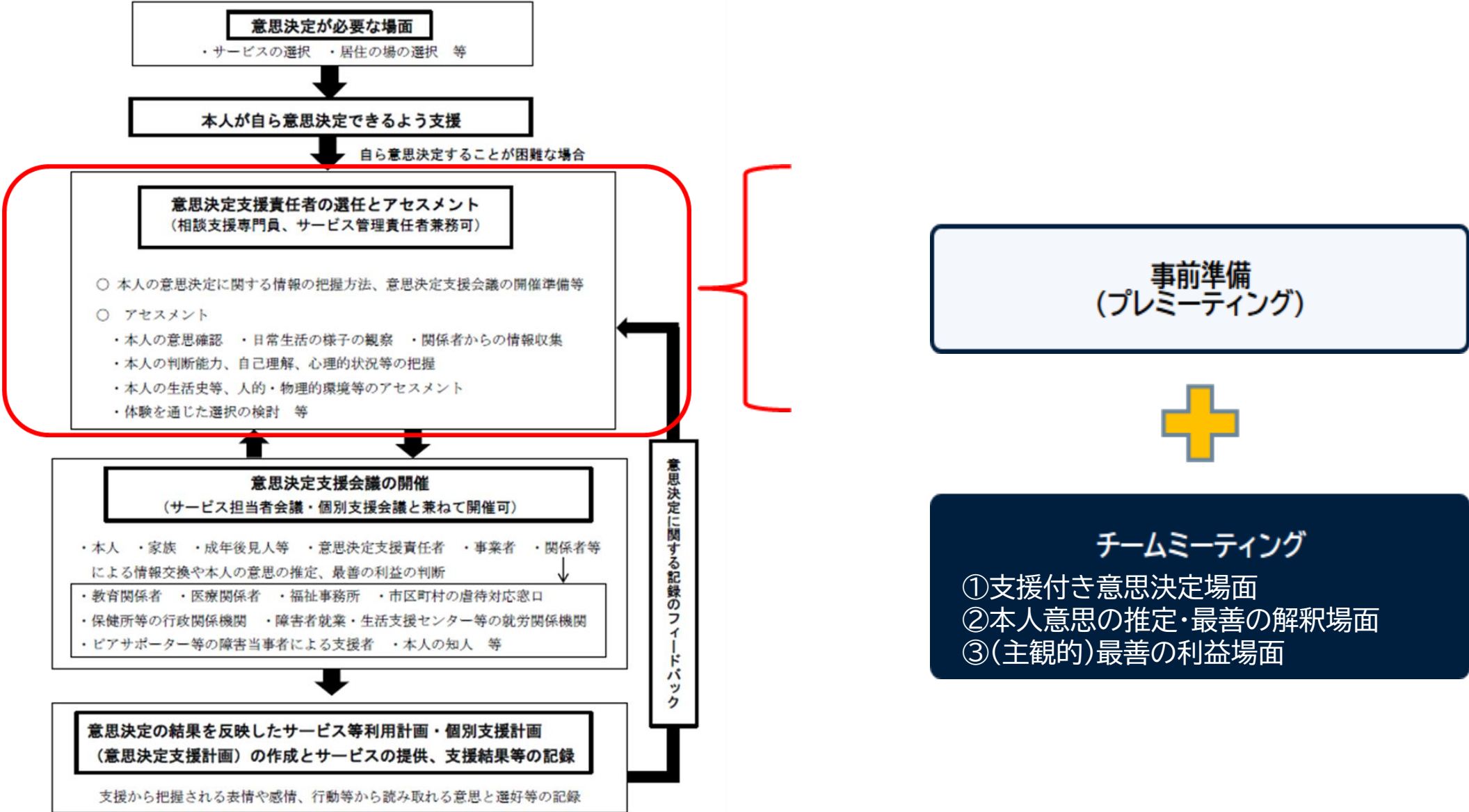


4. 意思決定に向けた支援プロセス①

「意思決定支援」ガイドラインに基づく支援プロセス

障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドラインP11

(図1) 意思決定支援の流れ



映像で学ぶ

～高次脳機能障害・失語症のある

青木さんのストーリー～



厚生労働科学研究費補助金

障害者の意思決定支援の効果に関する研究班 制作・著作

高次脳機能障害・失語症のある青木さんのストーリー



- ▶ 脳梗塞が原因で高次脳機能障害・失語症になった60代の男性
- ▶ 以前はゴミ屋敷のような自宅で一人暮らしをしていたが、今年の夏に熱中症になり、病院に緊急搬送された。
- ▶ 言葉でのやりとりが難しいが、青木さんは身振り手振りで何かを伝えようとすることもある。
- ▶ 身寄りがない青木さんの今後について、どのように支援していくかが関係者間の悩み。

グループワーク③

「意思決定支援の実現に 向けた働きかけ」

グループワーク③の進め方

- 1 動画視聴(約10分)
 - ・視聴後のディスカッションを意識して視聴する
- 2 発表者を決める
- 3 グループ内でディスカッション(15分)
 - ① 支援者の「思い込み」の背景
 - ② これは青木さんの意思決定？
 - ③ 意思決定を促進する「環境づくり」のための工夫
- 4 全体共有

意思決定支援会議の実現に向けた働きかけ（約10分）



映像で学ぶ～高次脳機能障害・失語症のある青木さんのストーリー～

厚生労働科学研究費補助金

障害者の意思決定支援の効果に関する研究班 制作・著作 75

シーン1 ディスカッション 「意思決定支援の実現に向けた働きかけ」



- ① なぜ今回のシーンでは、青木さんは会議に入っていなかったのでしょうか？どのような「**思い込み**」が背景にあったか考えてみましょう。
- ② 青木さんは施設入所に「うなずいていた。」との馬場さんの発言がありました。これは**青木さんの意思決定**と捉えるべきでしょうか？
- ③ 青木さんの意思決定を促進する「**最適な環境**(人・場所・コミュニケーション方法等)」づくりのためにどんな**工夫**が考えられますか？

そもそも会議の目的は何？

意思決定支援型会議 (本人中心会議)

- ▶ 本人には意思決定能力があることを常に推定
- ▶ 本人と支援者は対等であり、本人の希望や信条、価値観が議論の中心に据えられる
- ▶ 本人に対する合理的配慮が十分に行われる

最終的な決定権は「本人」

介入型会議 (支援者中心会議)

- ▶ 本人には意思決定能力が欠けている
- ▶ 支援者による会議の結果、本人はそれに従う
- ▶ 高度に専門的な議論が行われるため、本人は不参加

最終的な決定権は「支援者」

Q 「意思決定支援」会議がうまく行かないのはなぜ？ – 5つの疑問提起 –

- ①意思決定支援のコンセプトが共有されないまま、トラブル解決(レスキュー型視点)のための議論に終始していませんか？特に、障害がある、コミュニケーションがうまく取れない等をもって、全般的な意思決定能力が無いと推定していませんか？
- ②意思決定支援会議における目的を達成するためのルールや支援者間の役割分担が十分に意識されていないのではありませんか？
- ③本人の意思決定に対する支援よりも関係者の都合が優先されていませんか？
- ④会議だけで全てを完結させようとしていませんか？日常の意思決定支援や記録の収集が不十分ではありませんか？
- ⑤意思決定主体である本人が「お客さん」になっていませんか？

Q チームの「対立」原因は何か？ ファシリテーション技術が求められる理由



人・団体の背景事情や価値観が異なることによる対立

→原則・例外のとらえ方や思考の手順が違うため、話がかみ合わない

事実関係の有無を判断できないことから生じる対立

→誰かが事実を「否認」すると、事実の存在／不存在について合理的な説明ができず先に進めない

基礎となる事実関係に対する評価の差から生じる対立

→評価基準の違いや経験則上の思い込みから、「〇〇という事情なら、こうであるに違いない」とってしまう。

パワーバランスによる対立

→賛成・反対の人数、立場、その場の空気感によって、議論の筋とは異なるところで結論が決まってしまう。

ファシリテーションの観点から事前準備の段階で共有しておきたいこと



- ▶ 今回の会議における参加メンバーの確認
- ▶ 意思決定支援の**基本原則**の確認
- ▶ **ミーティングの目的とルール**の確認
(すること・してはいけないこと・配慮すべきこと等)
- ▶ 各参加者の**役割**の確認
→「ファシリテーター」(中立な立場)と本人の「**アドボケート役**」
(本人視点にとことん立つ立場)を意識的に分ける
- ▶ 本人による意思決定のベストチャンスを確保するために必要な**合理的配慮**事項の確認
→本人にとって良い環境・時期・場所・対話する人
→本人にとって円滑なコミュニケーション方法

「意思決定支援」チーム ①基本メンバー



本人(意思決定者)

単独での意思決定に困難を抱える本人。最終的な意思決定を行う。

意思決定支援責任者 / ファシリテーター(調整役)

ミーティングの主催者。相談支援専門員、サービス管理責任者等が想定される。

会議ルールに則りメンバー間の議論を促進させ、必要に応じて適切な介入を行う。

キーパーソン／アドボケイト

本人が信頼する者、当該意思決定に中心的に関与する必要がある者(友人・家族・機関職員・後見人等)。

本人が意思形成・決定・表明することを促しつつ、必要に応じて本人の意向を代弁するアドボケイトの役割を担う。

意思決定支援チーム ②状況に応じて関与が想定されるメンバー



▶ 福祉サービス・医療サービス提供者等

(ヘルパー・施設職員・保健師・看護師・医師・言語聴覚士・新たなサービス提供者など)

▶ 本人の身近にいる人々

(家族・親族、友人、ボランティアなど)

▶ 地域社会で活動している人々

(大家・近隣住民・自治会メンバー・社協・NPO職員・不動産業者・旅行者など)

グループワーク④

「本人の価値観・選好の 発見・収集」

グループワーク④の進め方

- 1 動画視聴(約5分)
 - ・視聴後のディスカッションを意識して視聴する
- 2 発表者を決める
- 3 グループ内でディスカッション(15分)
 - ① 青木さんの笑顔はどんな時？
 - ② 青木さんの好き(得意)なこと・嫌い(苦手)なこと
 - ③ 青木さんの選好・価値観を発見・収集することの意味
- 4 全体共有

ご本人の価値観や選好を発見・収集するための個別面談（約5分）



映像で学ぶ～高次脳機能障害・失語症のある青木さんのストーリー～

厚生労働科学研究費補助金

障害者の意思決定支援の効果に関する研究班 制作・著作 85

シーン2 ディスカッション ご本人の価値観・選好の発見・収集



① 青木さんはどんなときに**笑顔**を見せていましたか？
なぜ笑顔が見られたのでしょうか？

② 一連のやり取りから考えられる、青木さんの**好きなこと(得意)・嫌いなこと(苦手)**を挙げてみましょう。
それらの情報から、青木さんはどのような性格や価値観の持ち主であると推測されますか？

③ 青木さんの選好・価値観を発見・収集することは、「**意思決定支援**」の**プロセス**において、どのような**意味**があると考えますか？

「意思決定支援」における基本視点



本人中心主義（パーソン・センタード）

あらゆる人が自分で決定し、自分の人生を決める権利を持っている
＝**対等なパートナー**として、**意思決定の中心には常に本人**がいる。

そのためには、常に自問自答すること。



本人が自己決定するためのベストチャンスを与られているか？

- 1 **環境**はふさわしいか。決定を議論するのに適切な**時期**か
- 2 **十分な時間**をとって**十分な情報**や明確な**選択肢**が与えられているか
- 3 写真や映像等、本人が理解しやすい形で情報提供されているか
- 4 **利益、不利益、予想される結果（見通し）**を議論しているか



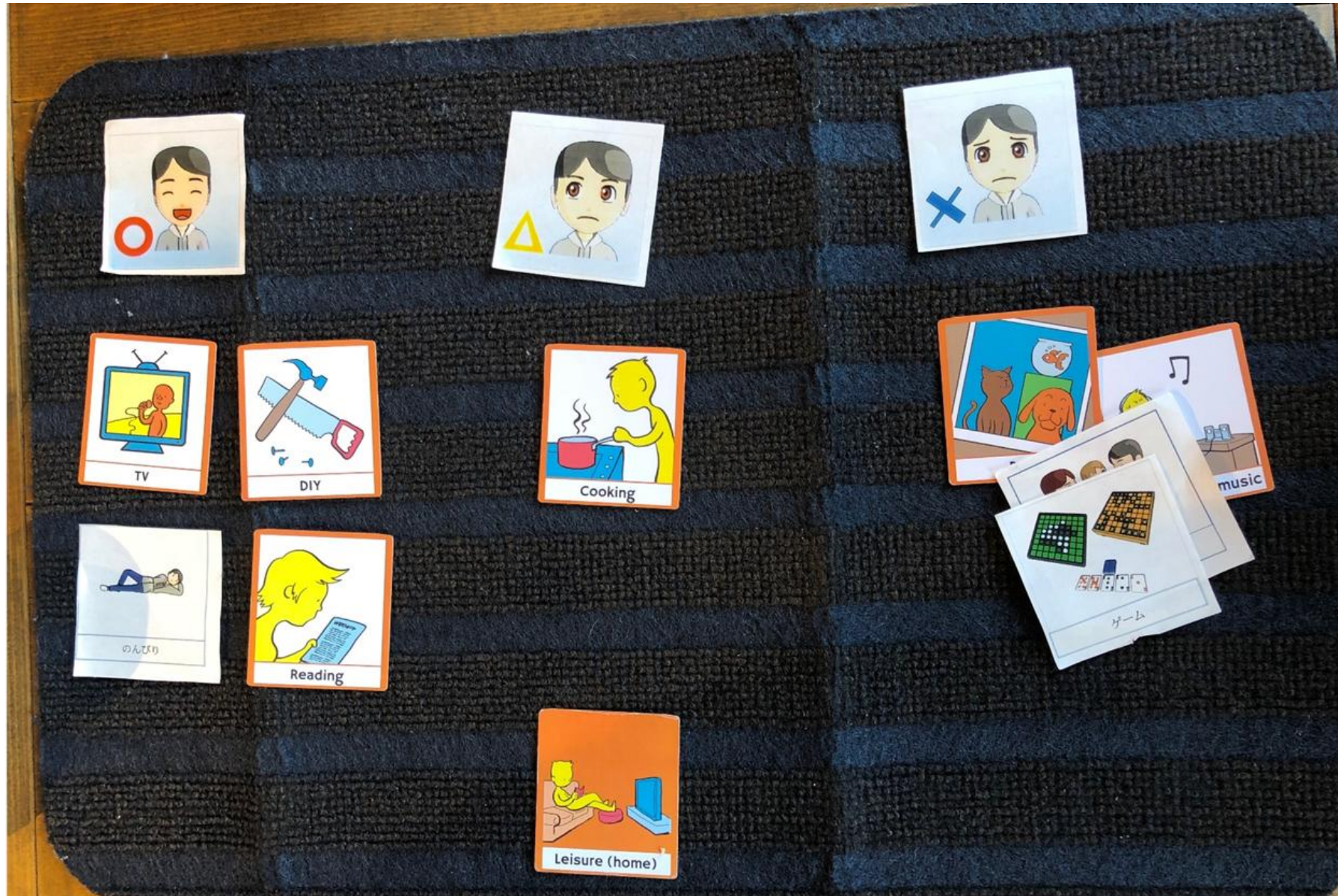
パートナーとの多様なコミュニケーション方法について



- タブレットやiPad
- 音
- ボディーランゲージ
- 表情
- 目, 頭, 手の動き
- 姿勢
- マカトンサイン・手話
- 補助・代替コミュニケーション (AAC) *ex.* トーキングマット
- 各種コミュニケーションツール
- ビジュアル(絵, 文字, 写真)等



青木さんのトーキングマット結果



留意点①～青木さんの抱える障害について～

この映像に出てくる「青木さん」ですが、高次脳機能障害における「失語症」の状態像であると思われます。「失語症」には、複数の種類があります。

◆運動性失語

発声は保たれているが、喋ることが困難で、まとまった意味を流暢に表出することができない

◆感覚性失語

相手の言う言葉は音として聞こえるが、意味が理解できない。

◆全失語（「運動性失語」+「感覚性失語」）

声は出る、耳も聞こえる、しかし言葉が理解できず、話せない。
健康な人でも、海外旅行に行くと経験する事ができます。

留意点②～青木さんの抱える障害について～



- ・「青木さん」の状態像は、物事の意味は理解はできますが、言葉がでてこない「運動性失語」の状態像であることが考えられます。
- ・この場合は、映像で紹介しているような手法は有効かも知れませんが、重度の知的障害や自閉スペクトラム症の方など「提示されている情報の意味が理解できない」「言語での説明の意味理解が難しい」という場合には、その方の障害特性に合ったコミュニケーションツールを活用するようにしてください。
- ・例えば、自閉スペクトラム症の方の障害特性やコミュニケーションの手法を学ぶには「強度行動障害支援者養成研修」といった、研修の受講を通して、学びを深めるといった方法が有効です。

3. 意思決定支援の基本的原則（1）（ガイドラインP4）

本人への支援は、自己決定の尊重に基づき行うことが原則である。本人の自己決定に にとって必要な情報の説明は、本人が理解できるよう工夫して行うことが重要である。また、幅広い選択肢から選ぶことが難しい場合は、選択肢を絞った中から選べるようにしたり、絵カードや具体物を手がかりに選べるようにしたりするなど、本人の意思確認ができるようなあらゆる工夫を行い、本人が安心して自信を持ち自由に意思表示できるよう支援することが必要である。